



Weekly Market Report

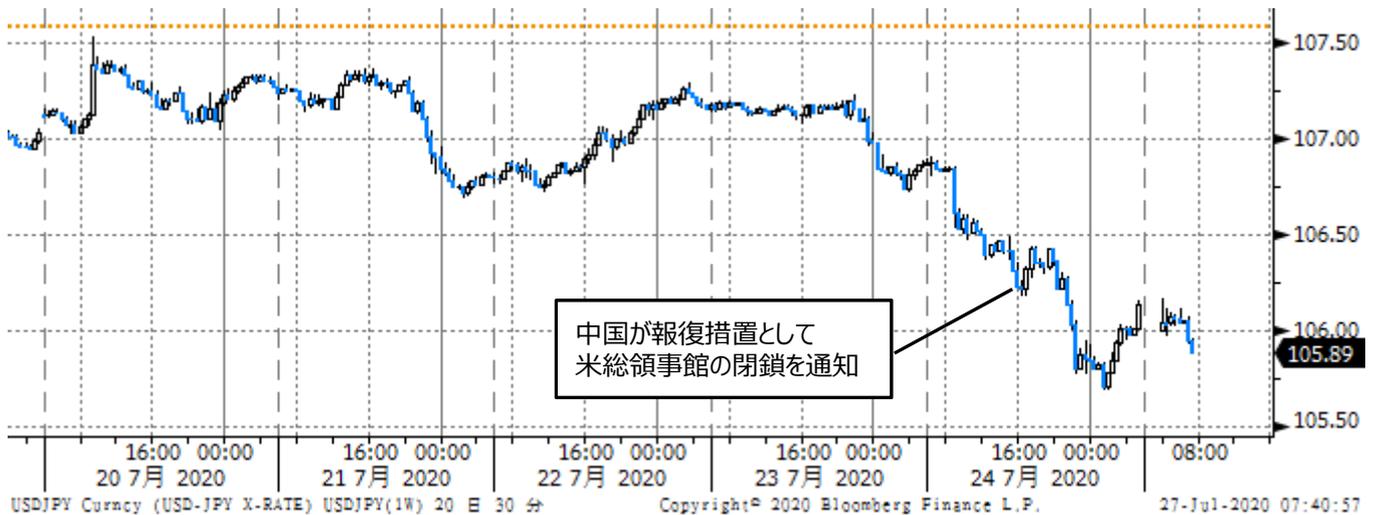
Jul 27, 2020

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

米中对立激化懸念により、リスクオフの米ドル安へ。

USD/JPY (1週間の値動き)



コメント

(出所) Bloomberg

先週の米ドル円相場は、数週間続いたレンジの下限（1米ドル=106円台後半）を割り込み、米ドル売りが拍車をかける展開となった。23日（木）・24日（金）と日本の祝日が重なり、国内勢の買い支えが薄い中、EU首脳会議の復興基金合意に伴ってユーロ高が進み、米ドルの相対的価値が低下した。さらに米政府によりテキサス州ヒューストンにある中国総領事館が閉鎖され、中国も報復措置として四川省成都市にある米総領事館の閉鎖したことで、米中对立激化懸念が台頭。これらの要因等からリスクオフの米ドル安が進み、3/16以来となる1米ドル=105.69円を示現した。その後も戻りは鈍く、週明けも1米ドル=106円ちょうど近辺での推移が続いている。足元の米ドル安は、新型コロナ対策による通貨供給量の増加や米雇用不安等の弱いファンダメンタルズを背景としており、今週も引き続き新型コロナ関連のヘッドラインを注視しつつ、米中对立激化懸念を背景とした更なる米ドル安に警戒が必要だ。

(市場商品部 真殿)

今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
7/27(月)	6月耐久財受注 (米国)	7.0%
7/28(火)	7月消費者信頼感指数 (米国)	94.4
7/29(水)	FOMC政策発表	
7/30(木)	4-6月期実質GDP (米国)	▲35%
7/31(金)	4-6月期実質GDP (欧州)	▲12%

USD/JPY (5年間)



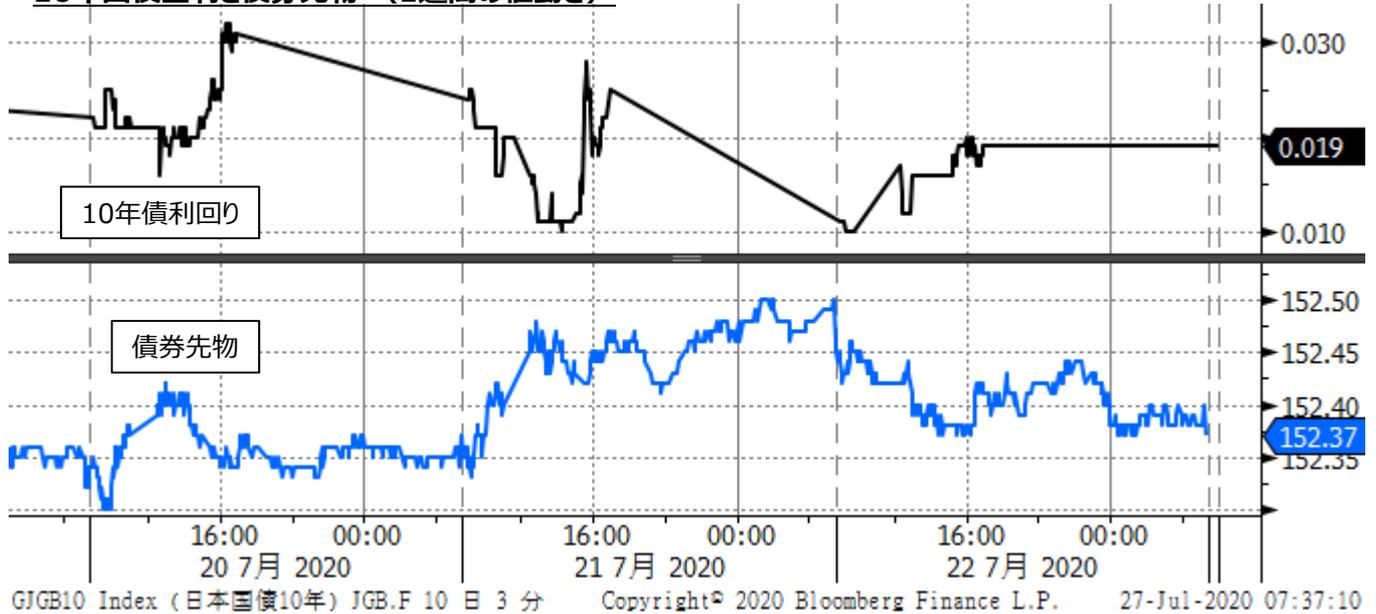
今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
治久丸智文	104.50 - 107.20	コロナウイルス拡大及び米中関係悪化懸念により上値重く、一段の円高進行に警戒。米国企業決算・FOMCに注目。
福永純一	105.00 - 107.50	米中对立を巡る続報による円高リスクに要警戒。今週はFOMCや失業保険補助の追加措置の行方に注目。

2. 円金利相場概況

20年債入札を順調に消化、国債増発後も超長期セクターの需要を確認

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



(出所) Bloomberg

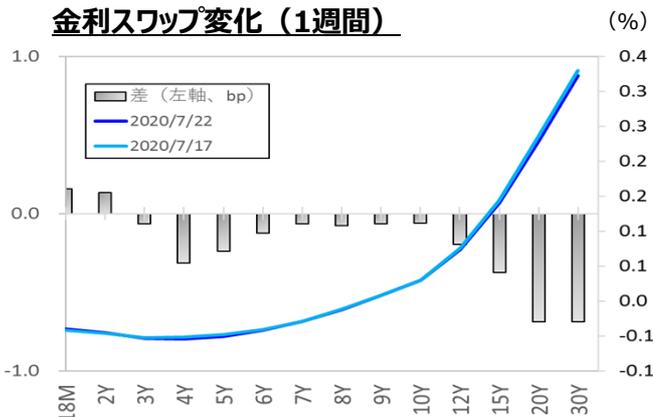
コメント

先週の円債市場は週末4連休により取引が3営業日のなか、10年債利回りは0.010-0.032%のレンジで推移し前週末比変わらずの金利水準。一方、超長期債は順調な20年債入札を受けて金利低下、カーブはフラットニングした。先週は6月の国債投資家別売買動向が公表され、増発を控えた6月時点で生損保や地域金融機関に高水準の需要が確認された。増発後の7月の20年・30年入札も順調に消化しており、両セクターの需要は継続していると考えられる。

連休中の海外では、米ポンペオ国防長官がスピーチにて対中強硬姿勢を強化する動きがあり、米10年債利回りは0.6%を割った。金曜の米新規失業保険件数が増加に転じたことも金利押し下げ要因となった。米中対立が再燃してきており、円高・株安という外部環境が今後の円債市場に一定の金利低下圧力をかけると思われる。

(市場商品部 権田)

金利スワップ変化（1週間）



5年円金利スワップ推移（5年間）



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
内田直樹	▲0.02% - 0.03%	増額発行後の国債入札が無難に通過していること、米中対立の深刻化も相俟って、長期債利回りは底堅い推移を予想。
廣瀬友絵	▲0.01% - 0.03%	国内でも新型コロナウイルスの感染拡大が続くなか、債券需要の高まりは継続し、金利の上昇は限定的と予想。

米国株式トピックス

コロナショックによる、半導体市場への影響と今後の展望

フィラデルフィア半導体指数について

フィラデルフィア半導体指数は一般に「SOX指数」とも呼ばれ、Nasdaq PHLXが算出、公表する半導体の設計、製造、販売、流通を手がける企業の株式で構成される調整時価総額加重平均指数を指す。代表的な構成銘柄としては、Intel、NVIDIA、Broadcom、QUALCOMM、AMDなどが挙げられ、全30銘柄で構成されている。SOX指数は1993年12月1日を基準値100として算出されており、直近は2,038.712ポイント（7/24日時点）を記録している。米国株式の代表的な指数であるS&P500指数に比べても高パフォーマンスを記録している。（図1、2参照）。また近年はIoTや5G関連などのハイテク企業を代表的する指数として目されており、世界経済の先行きを占う上でも非常に重要な指数とされている。

新型コロナウイルス感染拡大による影響

新型コロナウイルスは依然として、世界中で猛威を振るう状況が続いている。世界保健機関（WHO）の公式HPによると7/26時点で、日本では2.9万人、米国では400.9万人の感染者が確認されており、新規の感染確認者数も増加傾向にある。そうした新型コロナウイルスの感染拡大を尻目に株式市場、特に米国ハイテク株式市場は大幅な上昇を記録している。SOX指数も例外ではなく、直近3か月のパフォーマンスは+18.18%の上昇を記録しており、7/20には史上最高値を記録している。その背景にあるのが、巣ごもり需要やテレワークの普及といった、ライフスタイルの変化による半導体の需要増加へ期待感である。コンピューターネットワーク機器開発会社であるシスコシステムズによると、IPネットワークに接続されるデバイス数は年平均成長率10%で成長すると予想しており、2022年には全世界で285億台の普及を見込んでいる。これは、世界で一人あたり、3.6台のデバイスを保有することを意味する。しかし、今回のコロナ禍を機に、シスコシステムズの予想を上回るペースでデバイスが普及する可能性もあり、そうした期待感から今回の反発につながっていると予想される。

今後の市場展望

新型コロナウイルスは世界中で感染拡大を続けており、早期にワクチンが開発されない限りwithコロナ時代の到来が予想される。SOX指数を構成する半導体関連企業は、そうした新たな時代を支える技術を持っていると考えられる。足元は、新型コロナウイルスによる業績悪化などからバリュエーションとの乖離を指摘する声も多く、現在のSOX指数の価格について疑問視をする見方もあるのは事実である。しかし、オフィスワークが当然の働き方やライフスタイルなどが新型コロナウイルス感染拡大前に戻ることが困難であるのもまた事実である。それらを踏まえて、SOX指数については、短期的には急騰した相場の反動が出る可能性もあるが、新たな時代の根幹を支える技術を持つ企業として、長期的な視点に立って、今後も注視していきたい。

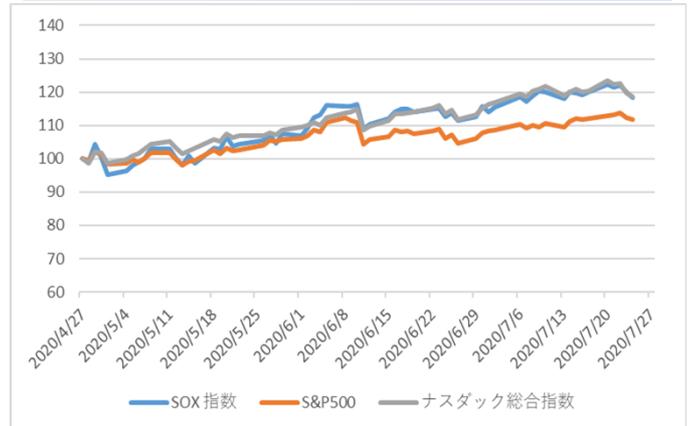
（市場営業部/梅村）

【図1】SOX指数と米国主要株式指数の推移（1年）



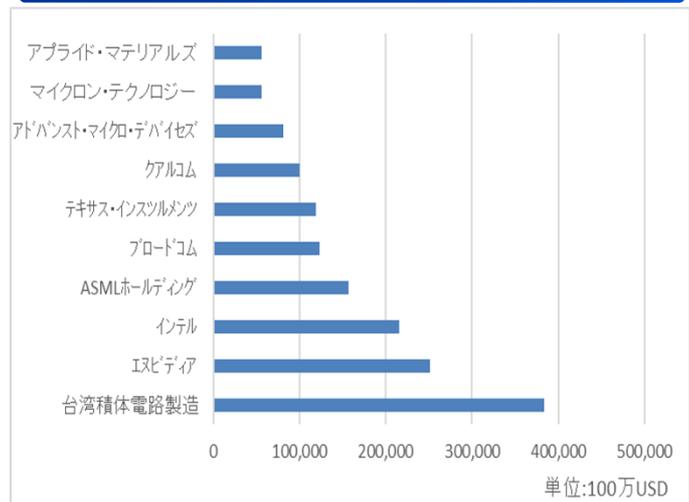
出典：Bloomberg

【図2】SOX指数と米国主要株式指数の推移（3か月）



出典：Bloomberg

【図3】SOX指数 時価総額上位10銘柄



出典：Bloomberg

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会